

野外活動施設の今後のあり方について（報告）

1 現状と課題

教育委員会が所管する野外活動施設については、似島臨海少年自然の家は、平成30年度に基本計画を策定し再整備を行うこととしているが、青少年野外活動センター・こども村及び三滝少年自然の家・グリーンスポーツセンターは、耐震化対策や老朽化対策が課題となっているほか、三滝少年自然の家・グリーンスポーツセンターの敷地は土砂災害特別警戒区域に囲まれ、建物の一部も同区域に指定されているなどの課題を抱えている。

また、本市の野外活動施設の主な利用者である14歳までの年少人口は年々減少しており、こうした傾向は今後も続くものと見込まれている。

2 施設の特徴及び利用状況

区分	青少年野外活動センター・ こども村	三滝少年自然の家・ グリーンスポーツセンター
主な特徴	広域都市圏内最大の収容規模を有し、大規模校から小規模校まで幅広く受入れている。また、地元と連携した利用者との交流を行っている。	市内中心部から近く、屋外アスレチック施設（無料）については、土日・休日のファミリー層の利用が多い。
令和元年度 宿泊利用者数	3万6,680人 (日帰りを含む総利用者8万3,897人)	2万507人 (日帰りを含む総利用者12万4,973人)
	内訳	内訳
	幼稚園・保育園 1,628人	幼稚園・保育園 4,102人
	小学校 20,419人 (うち広島市立学校 19,807人)	小学校 5,878人 (うち広島市立学校 2,616人)
	中学校 3,190人 (うち広島市立学校 2,606人)	中学校 1,032人 (うち広島市立学校 384人)
	子ども会等少年団体 5,058人 その他 6,385人	子ども会等少年団体 6,499人 その他 2,996人

【参考】近隣施設の状況

本市を含む県内の小・中学校の多くが、集団宿泊体験活動の場として上記2施設のほか似島臨海少年自然の家や広域都市圏内にある国立江田島青少年交流の家を利用している。

区分	似島臨海少年自然の家	国立江田島青少年交流の家
主な特徴	海水プールを利用し、夏季の遊泳のほか、夏季以外の11月末まではカヌー体験を行っている。	心身の鍛錬やチームワークを向上させるプログラムとして、カッター研修を行っている。
令和元年度 宿泊利用者数	2万461人 (日帰りを含む総利用者4万4,733人)	8万6,767人 (日帰りを含む総利用者10万9,551人)
	内訳	内訳
	幼稚園・保育園 108人	幼稚園・保育園 0人
	小学校 9,261人 (うち広島市立学校 5,637人)	小学校 17,205人 (うち広島市立学校 2,715人)
	中学校 3,086人 (うち広島市立学校 92人)	中学校 21,701人 (うち広島市立学校 16,107人)
	子ども会等少年団体 5,568人 その他 2,438人	子ども会等少年団体 15,619人 その他 32,242人

### 3 あり方検討の方向性について

#### (1) 基本的な考え方

- ア 各施設については、近隣施設との連携や役割分担も視野に入れ、より多くの利用者が確保できるよう、また、当該地域も含め広域都市圏全体の活性化に資するものとなるよう更新のあり方を検討する。
- イ 更新のあり方の検討に当たっては、施設が立地されている地域の特性を踏まえつつ、宿泊受入体制の要否を判断するとともに、効率的な施設整備や運営を行うための民間活力の導入について検討する。

#### (2) 施設ごとの今後の方向性

##### ア 青少年野外活動センター・こども村

自然に恵まれた中山間地域に位置する施設であることから、小・中学校や子ども会等の少年団体による野外活動・宿泊体験の場として、その機能を維持するとともに、より幅広い年齢層の市民や近隣市町の青少年の利用が促進されるようサービス向上策について検討する。また、地域との連携・交流事業の展開、地域の人材を活用したイベント開催等により地域の活性化に資する取組等について検討する。

##### イ 三滝少年自然の家・グリーンスポーツセンター

現施設の一部、またその周辺が土砂災害特別警戒区域であり、宿泊機能を有する施設の敷地として適切ではないことから宿泊機能は廃止し、受入体制については、今後の少子化傾向も踏まえ、近隣施設の活用を含め確保するとともに、屋外アスレチック施設を中心に市内中心部から気軽に利用できる日帰り施設として機能充実を図ることについて検討する。

### 4 今後の予定

施設の更新等に係る基本計画及び官民連携手法の導入可能性調査を行うため、令和3年度2月補正にて予算措置を行う。

#### (1) 基本計画及び官民連携手法の導入可能性調査の主な内容

##### (基本計画)

- ア 敷地のゾーニング、施設配置・規模
- イ 地域特性を踏まえた利用促進策や地域の活性化策を踏まえた機能等
- ウ 施設の運営方針

##### (官民連携手法の導入可能性調査)

- エ 基本計画において策定した再整備案に適用可能な事業手法の検討
- オ 本事業の事業期間、契約形態、官民の役割分担、リスク分担、財源等の事業スキーム

#### (2) スケジュール（予定）

- |         |                         |
|---------|-------------------------|
| 令和4年度   | 基本計画及び官民連携手法の導入可能性調査の実施 |
| 令和5年度   | 事業者公募の準備                |
| 令和6年度   | 事業者の公募                  |
| 令和7年度   | 実施設計                    |
| 令和8～9年度 | 建築工事                    |
| 令和10年度  | 供用開始                    |

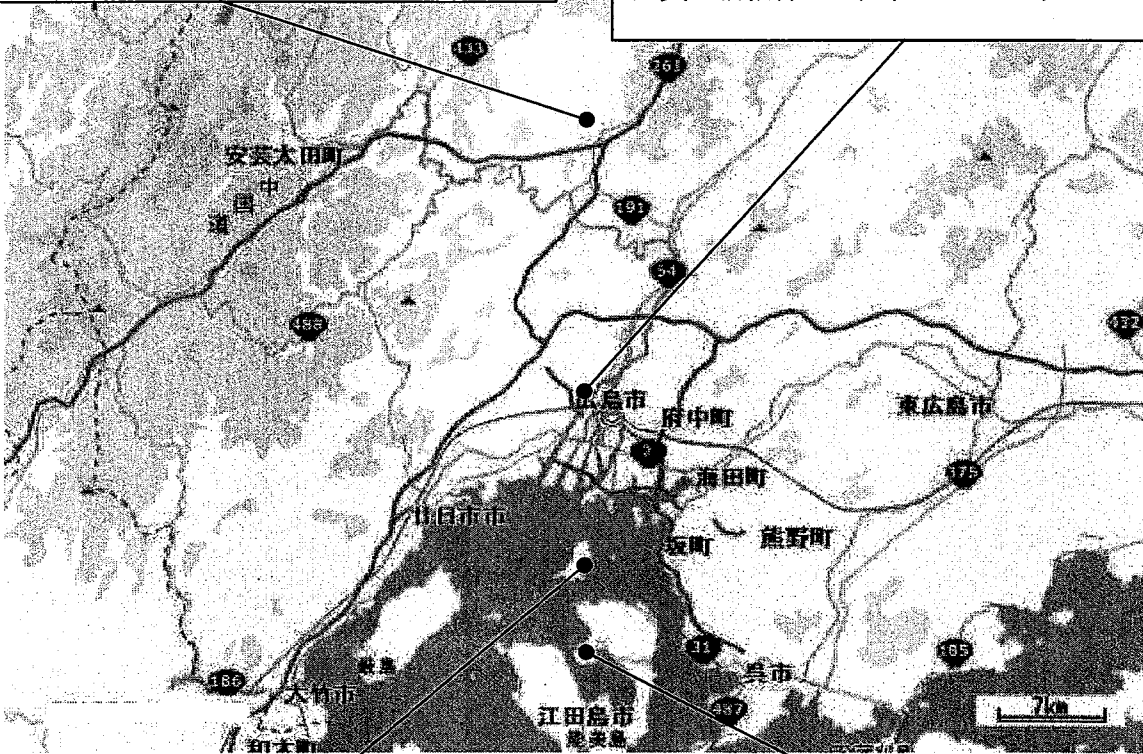
## 施設の概要

## 青少年野外活動センター・こども村

建築年度：昭和 46 年度(こども村 昭和 55 年度)  
 築年数：50 年(こども村 41 年)  
 構造：鉄筋コンクリート造 3 階建ほか  
 延床面積：4,159 m<sup>2</sup>(こども村 3,603 m<sup>2</sup>)  
 定員：宿泊棟 336 人、テント 744 人

## 三滝少年自然の家・グリーンスポーツセンター

建築年度：昭和 53 年度(グリーン 昭和 57 年度)  
 築年数：43 年(グリーン 39 年)  
 構造：鉄筋コンクリート造 3 階建ほか  
 延床面積：3,624 m<sup>2</sup>(グリーン 309 m<sup>2</sup>)  
 定員：宿泊棟 200 人、テント 96 人



## 似島臨海少年自然の家

建築年度：昭和 59 年度  
 築年数：37 年  
 構造：鉄筋コンクリート造 2 階建ほか  
 延床面積：4,309 m<sup>2</sup>  
 定員：宿泊棟 204 人、テント 120 人

## 国立江田島青少年交流の家

建築年度：昭和 41 年度  
 築年数：55 年(耐震工事実施済)  
 延床面積：13,069 m<sup>2</sup>  
 定員：宿泊棟 400 人